令和元年度第2回国立大学法人熊本大学病院監査委員会　監査報告書

医療法施行規則（昭和23年厚生労働省第50号）第15条の4第2項に基づき、監査を実施しましたので、以下のとおり報告します。

1．監査の方法

国立大学法人熊本大学病院監査委員会規則(平成29年1月13日規則第1号)に基づき、熊本大学病院における医療安全に係る業務の状況について、以下のとおり、整形外科・リハビリテーション部門の視察、テーマは「手術患者の入院受付から病棟への入院、術前リハビリ開始までのプロセスを検証する」で、「80歳男性、左人工股関節置換術予定の模擬患者」を設定して、監査を実施した。

・日　　時：令和2年2月5日（水）13:20～15:20
・場　　所：熊本大学病院管理棟3階第一会議室、
　　整形外科病棟、リハビリテーション部
・委 員 長：綾部 貴典（宮崎大学医学部附属病院医療安全管理部・副部長）
・出席委員：石崎 哲彦（熊本大学肝移植患者会いちょうの会with・副代表）
・対 応 者：谷原病院長、中山副病院長(医療安全管理責任者)、山本副病院長（看護部長）、岡整形外科医局長、砥上リハビリテーション部副部長、近本准教授（医師GRM）、藤末助教(医師GRM)、政副薬剤部長(薬剤師GRM)、田口看護師長(看護師GRM)、堀江副看護師長(看護師GRM)、上田副看護師長(看護師GRM)、川添総務課長、田尻医事課長、原医療サービス課長
・陪 席 者：浅井監事、芹川監査室長
・欠席委員：藤木 美才（ふじき法律事務所・弁護士）

2．監査の方法、内容、及び結果

(1) 外来における入院当日受付の運営・管理に係る業務の状況について

前回の監査では、熊本大学病院の「外来受診から入院するまでの流れ」のテーマで、初診時の運営・管理に係る業務の状況について、監査を実施したが、今回はその後の流れをくみ、病棟への入院の過程を監査した。
入院日が決定され、入院日当日の外来窓口を受付するところから開始した。

監査委員会委員長が模擬患者となり、80歳男性、左人工股関節置換術を受ける術前患者として、患者役を演じながら、熊本大学病院整形外科の病棟に入院してくるシナリオで監査した。

模擬患者は、喫煙歴（20本/日、50年間）、手術決定後に禁煙を実施して、アレルギー歴（卵と抗生剤）があり、冠動脈硬化症で2012年他院で経皮的冠動脈形成術（PCI）を施行され、抗血栓薬を服用中であり、2020年1月23日より手術目的のために抗血栓薬は中止され、日常生活動作は室内歩行可能であり、家族とともに入院してくるという設定で、家族役はもう一人の監査委員が演じた。

(2) 外来の医療安全に係る業務の状況について

手術予定の患者の入院当日の受付は、外来診療棟一階にある入院受付窓口⑩の場所を訪問し、保険証を提出し、患者本人の確認がなされ、病衣の

借用などの説明を受け、リストバンドも配布された。外来受付の医療安全に係る業務の状況については、受付窓口では患者確認が適切に行われ、懇切丁寧であったことを確認した。

「入院する病棟」は東病棟2階の整形外科であり、病棟までの行き方を案内された。実際に入院患者がどのように外来棟内を移動するのか、高齢者の股関節の手術を受ける患者の視点で、監査委員が実際に移動しながら、確認を行った。

設備・環境として、外来診療棟の廊下の床には、行先の案内表示の矢印が貼付されているのを確認した。案内表示を見ながら移動し、歩行は可能であるが股関節の手術患者の移動を想定しているので、エレベーターに乗り、東病棟2階へ移動した。

整形外科病棟の患者受付は、事務職員の方により患者確認がなされ、入院予定の270号室（特別室）に案内された。整形外科病棟の廊下には物は置かれておらず、障害物などはなく、きれいに整理整頓されていた。

(3) 入院日の病棟業務の現場の確認について

〇2階整形外科病棟において

270号室（特別室）の病室では、事務職員から、ベッドネームの患者氏名の確認、面会制限の説明があり、時期的にコロナウィルスのニュースが流される中でもあり、新型肺炎に対する感染対策などについて説明がなされた。アメニティーに関して、テレビ、DVD、冷蔵庫、照明器具など、使用方法について説明があった。

多職種（担当看護師、担当医師、看護師長）の各担当者の入院時の業務として、患者への対応が病室でどのように行われているか、現場で、入院時における多職種の役割分担業務について監査した。

入院時に持参した書類（入院のしおり、入院時問診票、麻酔のしおり、手術同意書、クリニカルパスの資料、お薬手帳）を実際に使用しながら、実務を確認した。

担当看護師からは、挨拶・自己紹介の後、リストバンドの患者氏名と患者本人の確認が、検査や治療において何度も行われることへの説明や、クリニカルパスの説明、禁煙の状況やアレルギー（卵、食事、抗生剤）の再確認、病歴や持参薬のチェックと内服中止薬の確認がなされた。

担当看護師からは、本日の予定、翌日の手術、術後の説明を、人工股関節の手術の患者用説明表を用いて、看護面の説明が行われた。術後の痛みに関する説明、アレルギーのない薬を使用するなどの説明もなされ、患者の個別の情報に基づいた丁寧な対応で、しっかり実践されていることが確認された。監査委員も手術の治療の経過について理解が得られ、安心できるとの感想であった。

担当主治医からは、挨拶・自己紹介の後、本日の診療の流れをクリニカルパスを用いて、人工股関節の手術説明、同意書・説明書の確認、質問事項への返答と、サインの受け取り、麻酔科医師による麻酔の説明があることや、術後のリハビリについて説明が行われた。術前から開始するリハビリ実施や評価のための診察がリハビリ室で行われることの説明があった。

監査委員のメンバーから、手術時間や術後の入院期間に関する質問があり、順調にいけば約2週間程度であることや地域連携との協働で退院・転院できることの説明があり、術後にどうなるのか安心されたとの感想であった。

病棟薬剤師からは、挨拶・自己紹介の後、持参薬の確認、アレルギーの再度のチェック、術前の中止薬の確認、サプリメントの確認がなされた。

看護師長から挨拶があり、平日ラウンドの実施、車の駐車券についてなど、家族の心配事への配慮があった。

○リハビリテーション部（リハビリ室）において

リハビリテーション部は、整形外科病棟と同じフロアにあり、病棟から離れたところにあるものの、通路には手すりが整備され、曲がり交差通路の天井には、衝突防止のためのミラーが設置され、安全が確保できる工夫がされていた。通路廊下の幅は広く確保され、障害物等もなく、リハビリ患者の行き来に余裕があり、きれいに整理整頓されていた。

リハビリ室の受付は、事務職員による患者本人確認がなされ、感染対策のアルコール手指消毒の推奨があった。診察室に案内され、患者は転倒防止のための動かない椅子に座り、医師の診察を受けた。

整形外科のリハビリ担当医は、挨拶・自己紹介の後、患者氏名確認を行い、電子カルテを見ながら、日常生活状況（ベッドで寝るか布団で寝るかどうか、買い物、歩行状況、和式様式のトイレ、庭に出るかどうか）の確認を行い、手術に関連した股関節の屈伸や立ち上がり動作を考慮した診察が実施された。利き手、食事の介助、男女の別、調理場の状況についても聞き取りがあり、理学療法士、作業療法士を含めて、多職種で訓練メニューの立案がなされるとのことであった。

全身麻酔検査（胸部X線、心電図、呼吸機能検査など）の評価、心疾患や閉塞性肺疾患の有無により、肺炎予防のための呼吸器リハビリの追加や、筋力や関節可動域、自助具や入浴についても、また、転倒・褥瘡・深部静脈血栓症のリスクを評価し、リハビリ実施計画書、説明同意書、サインの確認がなされた。

多職種による総合実施計画書を作成し、カンファレンスが行われ、日々リハビリの実施に応じた診療の記録がなされていた。

また、心臓リハビリテーションは、午後2時から4時、循環器内科医師の立ち合いにより実施されていた。医師2名、看護師1名、理学療法士13名で、入院患者に対するリハビリを実施していた。

3．総括

医療安全に係る業務について、令和元年度第2回監査委員会を開催し、手術を目的に入院する患者の入院第一日目の「整形外科、リハビリテーション部」に係る監査を実施した。

外来部門の運営・管理に係る業務は、前回、受付窓口業務における職員の患者対応におけるスマイルが少ないことが指摘されていたが、今回の監査では、多職種の対応職員の笑顔の向上が見られ、改善されていることが確認され、非常に丁寧な対応がされており、感銘を受けた。これらのことは重要であり、患者対応・接遇において継続されていくことを期待したい。

また、コロナウィルスに対する新型肺炎への対応について、2月5日の時点で院内職員全員のマスク着用など、病院組織としての早期の高いレベルの徹底した院内感染対策の実施も見うけられ、感心させられた。

整形外科・リハビリセンターは、受付事務職員、医師、看護師、多職種におい

て、懇切丁寧な対応と診療で、スマイルもあり、非常に良かった。リハビリについては、リハビリ担当医師の診療は、適切に丁寧になされ、至れり尽くせりで、患者の立場に立った対応、計画を立案し、実践されていることを確認した。少ない人数スタッフで、多数の患者のアセスメントやリハビリ計画を立案し、転倒転落などがない安全なリハビリを実施されていることが確認された。

熊本大学病院にとって、外来と入院機能の連携と充実は現在取り組み中であるとのことであるが、大学病院におけるリハビリテーション機能の充実は、熊本県民、地域医療にとって重要課題であり、外来機能と入院機能との連続的な連携、および、患者第一の視点での患者サービスの充実と安全面の向上を目指されることを期待したい。

令和2年2月5日
国立大学法人熊本大学病院監査委員会
委員長　綾部　貴典
委員　石崎　哲彦